様式 4_助成事業実施報告書

2020 年 7 月 28 日

助成事業実施報告書

団体名 被災地 NGO 協働センター

代表者・役職名 氏名 頼政 良太

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書（精算報告書以外）は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真（2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します）を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

阪神・淡路大震災 25 年、「いま」を担う世代と考える～ボランティアは社会を変えることができるのか～

2. 実施団体の概要（創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで）

阪神・淡路大震災発生後の 1995 年 1 月 19 日に結成された、阪神大震災地元 NGO 救援連絡会議（代表・草地賢一）の分科会の一つとして、同年 8 月 1 日「仮設支援連絡会」として発足、翌 1996 年 4 月 1 日、「阪神・淡路大震災『仮設』支援連絡会」と改称し、現在に至る。

3. プロジェクトの目的とその背景（※応募申請書に記載のものでも可） 250文字程度まで

1995 年の阪神・淡路大震災では約 138 万人のボランティアが被災地に駆けつけ「ボランティア元年」と称され、災害対策基本法にもボランティアの重要性が記されるなど、社会の中でボランティアの認知度は増しています。一方で、被災地では、ボランティア不足が叫ばれ、災害関連死も増加の一途を辿り、劣悪な避難環境は変わらないままなど、問題が山積しています。こうした問題解決を目指すため、もう一度、阪神・淡路大震災時のボランティア活動を検証し、何を継承していくべきか、議論を積み重ね、知見と経験将来世代へをつないでいきます。

4. プロジェクトの内容（※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可） 300文字程度まで

阪神・淡路大震災の教訓を検証するだけでなく、現代の社会問題を合わせて検証することで、災害時の課題がどのようにつながっているのかを合わせて検証し、より災害に強い誰もが尊重される社会づくりに向けた提言を行いました。
特に震災を経験していない世代も含め、これまでの被災地でのボランティア経験などをもとに、議論をしました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

今回のプロジェクトでは 6 回の勉強会を行い、参加人数は1回の開催で約 15 名～20 名でした。災害対応で日程がずれ込み、そこに新型コロナウィルスが重なり、アクションプランの提言に至りませんでした。最初の 3 回は、被災地での「違和感」について議論し、避難所やボランティアセンター、復興における課題を抽出。その後 3 回は、各々講師 3 名にお話を伺いました。課題解決のためにはボランティアが創意工夫をしながら行政などに提言していくことの必要性をあらためて参加者同士で認識しました。「最後の一人まで」救う社会を実現できるように参加者一人一人が誰でもボランティアに参加しやすいような場を提供することを確認しました。

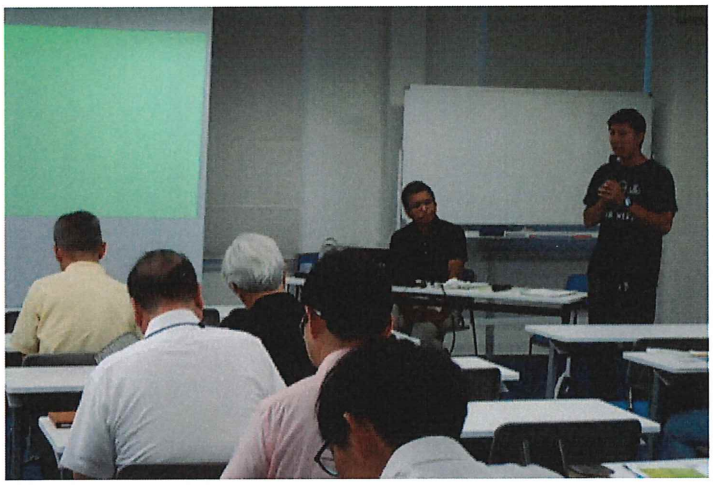
6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

震災から 25 年、災害を経験していない人たちや将来世代へつなげていくには多種多様なアプローチが必要だと痛感しました。被災地で課題を解決するために、もっと多くのツールを提案できるように、より幅広い方々から知恵を出し合う場を設けたいと思います。同時にボランティアへの敷居が高いという意見もあったので、気軽に参加できるような場を提供していきたいと思います。

今後は「最後の一人まで」の議論を深め、新型コロナウィルスを含めて複合災害への対応を加味しながら、オンライン講座と合わせて、遠方でも参加しやすいプロジェクトを展開していきます。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。	参考資料あり ・ 特になし



阪神・淡路大震災25年「いま」を担う世代と共に考える寺子屋勉強会
～ボランティアは社会を変えられるのか？～

「最後の一人まで」は実現するのか？

鳥取県「災害ケースマネジメント」の事例から

8月8日（木）
18:30～20:30

場所：起業プラザひょうご
セミナールーム
JR三ノ宮駅から徒歩5分
（神戸市中央区雲井通5丁目3－1 サンパル6F）

講師：白鳥孝太氏
とっとり県民活動活性化センター
震災復興活動支援センター主任企画員

▼講師プロフィール
公益財団法人とっとり県民活動活性化センターの復興支援担当。鳥取県中部地震（2016年10月21日発生）で被災した地域や家庭を支援するために同県が設置した「震災復興活動支援センター」事業を担当。
前職では、国際協力団体（NGO）の緊急救援担当者として国内や海外の災害被災地での支援活動に従事。東日本大震災では災害発生直後から5年にわたり、宮城県気仙沼市を中心に避難者支援、避難所や災害ボランティアセンターの運営支援、仮設住宅での生活支援、復興まちづくり、行政へのアドバイスなどの支援活動に携わる。現在は、鳥取県を中心に防災訓練の企画や実施のお手伝い、防災学習会や講演会の開催支援、災害ボランティア活動のアドバイスなどにあたる。鳥取県自主防災活動アドバイザー、防災士。

参加費　1,000円

阪神・淡路大震災から2020年1月17日で25年を迎えますが、新たな災害のたびに、様々な課題が繰り返し問題となっています。25年という節目に改めて、将来を担う「将来世代」とともに、より良い社会を将来に残せるように取り組んでいきたいと思います。
今回の寺子屋では、鳥取県の災害ケースマネジメントの取り組みについて講義をいただきながら、参加者の皆様と「最後の一人まで救う」ということは実現できるのかを議論していきたいと考えています。

お申し込みは⇨のQRコード
または、下記フォーム
https://forms.gle/ZR81xoq9sdprVHyJ6

メール・FAXでもOKです。

終了後、有志にて懇親会を行います。（要申し込み）

＊真如苑助成事業

主催：被災地NGO協働センター
◆問い合わせ・申し込み（担当：頼政）
TEL:078-574-0701　FAX:078-574-0702　E-mail:info@ngo-kyodo.org